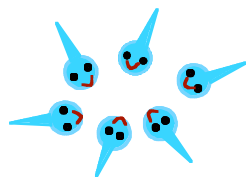


### 日本音楽表現学会第6回ベル・ジーリオ大会特集号

#### 目次

	頁
1. [巻頭言] 揺籃期から確立期へ . . . . . 奥 忍	2
2. 揺籃期を支えて頂いた役員の方々からのメッセージ . . . . . 中村 隆夫	3
	安藤 政輝
	川口 容子
	森川 京子
3. 2008年度総会報告 . . . . .	4
4. ベル・ジーリオ大会スナップ集 . . . . .	5-8
5. ベル・ジーリオ大会参加者の声 . . . . . 阿方 俊	11
	野崎 博子
	香曾我部琢
	寫 晴子
6. 新入会員紹介 . . . . .	13
7. 所属等変更 . . . . .	15
8. 会員によるコンサート案内 . . . . .	15
9. 大学教員の公募 . . . . .	17
10. 事務局からの大変重要なお願い 1—年会費納入について— . . . . .	18
11. 事務局からの大変重要なお願い 2—会員名簿の原稿のお願い— . . . . .	18
12. 事務局からの大変重要なお願い 3—住所等変更について— . . . . .	18
13. 学会からのお知らせ . . . . .	18
14. 「コンサート等後援願」書式 . . . . .	20
15. 「入会申込書」書式 . . . . .	20
16. 役員名簿・編集後記 . . . . .	20

日本音楽表現学会



〒616-8025 京都市右京区花園土堂町1-6

Tel. 075-462-1388 Fax. 075-465-5068

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~eeakita/kitayama/OHG-index.html>

年会費の振り込み→郵便振込口座：01370=6=78225 日本音楽表現学会

日本音楽表現学会会長 奥 忍 (音楽教育学・ヴァイオリン)

6月に開催されたベル・ジーリオ大会は日本音楽表現学会の第6回大会でした。設立大会以来5年間、学会は音楽表現の研究を深めたいという学会員の熱意によって支えられ、順調に発展してきたように感じられます。

音楽表現は、表現そのものを追究していくとともに、その表現を裏付け、サポートする研究が必要です。本学会はこのような認識に立って、音楽の各分野の表現者が集まり、音楽表現とは何か、音楽表現の社会的意義、深化する音楽表現、拡大する音楽表現、音楽表現の学習・継承・発展、他の表現分野との関わりなどについて音楽表現者の視座から追究することを目的として設立されました。いいかえれば「音楽表現学」を確立しようとするものです。

この5年を振り返ってみますと、最初は手探りだった研究も、大会発表や機関誌『音楽表現学』の発行を通して徐々に深化し、領域も拡大してきました。この学会の方向性が見えてきたように感じられます。その意味でもこれまでを「音楽表現学」の揺籃期とするならば、これからは研究を充実させていくべき「確立期」ともいえるでしょう。

ところで、音楽表現について思考する時に私たちが求めるものは、自然科学のように普遍的な原理に集約されるようなものではありません。多様な音楽の表現について概念を一致させ、定義づけることは極めて困難です。あるいは無意味と言えるでしょう。「音楽表現学」はむしろ、音楽表現自体に視座を置き、創作や演奏活動を通して得た芸術の存在意

義や価値を改めて認識すること、音楽表現そのものを究明すること、表現素材開発や改良など表現媒体について研究すること、さらに創作・作曲などの一次的表現、それらを音として実体化するための解釈や演奏技法の研究とその実現、聴取者との交感など、表現の多様なあり方や学習・指導方法を含め、音楽表現のあらゆる様相を科学的に体系づける分野だと言えるのではないのでしょうか。「音楽表現学」は現在形成中の学問分野であり、学会員のみならずの多様な研究なしには定かな形をとることのできない分野なのです。

ところで、この5年の間に、日本社会の荒廃が加速度を加えているように感じるのは私だけでしょうか。音楽表現分野を衰退させないためにも、有意義な研究成果を積み上げて音楽表現分野の発展と後進への道標を残していく必要を痛感します。

今回、2008-9年度の会長・理事が選出されました。会長の任を引き受けるにあたって、学会をここまで育てて頂いた中村前会長や役員の方々を初め、会員のみなさまに心からの感謝を申し上げるとともに、気を引き締めて確立期への一歩を踏み出したいと思えます。今期の理事会は以下のように組織しています。また、これまで会長、副会長をお務め頂いた方には相談役としてご協力をお願いしたく、会長諮問会議（仮称）を発足させました。ここに役員組織を報告するとともに、会員のみなさまのご協力をよろしくお願い致します。

## 2008-9年度役員組織

理事会	会計監事：加藤 晴子	会長諮問会議（仮称）委員
会長 奥 忍	若井 健司	安藤 政輝
副会長 佐々木正利（ニューズレター担当）	編集委員会	草下 實
安田 香（事務局長）	委員長：杉江 淑子	中村 隆夫
理事 榎藤 敦子（名簿作成担当）	副委員長：小西 潤子	
土門 裕之（ニューズレター担当）	委員：安藤 珠希	参事 似内裕美子（会長付）
谷口 雄資（会計担当）	後藤 丹	近藤 晶子（事務局長付）
柳井 修（会計担当）	小畑 郁男	
	佐野 仁美	

## 揺籃期を支えて頂いた役員の方々からのメッセージ

今回任期を終えられたのは、中村隆夫、安藤政輝、川口容子、森川京子の皆さんです。学会発足の準備段階から中心になって貢献されてきた方たちです。発足時の例外規定によって5年という長い間任務について頂きました。ここに心からの感謝を表し、以下にお送り頂いたメッセージを記載します。

すばらしい出会いに恵まれた5年間

2003-7年度会長 中村隆夫（指揮）

2003年の学会創立以来担っていた会長職を、第6回大会をもって終え、ほっと一息ついているところです。それにしてもなんと充実した5年間だったことでしょうか。設立大会に広島に集まった皆さんとは、大半の方が初対面でした。それなのにどなたともすぐに親しく言葉を交わすことができ、その後、札幌-静岡-岡山-熊本と続く大会ごとに、どんどん交流の輪が広がっていきました。そして今回の東京大会。昭和音楽大学のすばらしい施設を快適に使わせていただきながら様々な発表が行われ、最新の情報を交換し、大きな充実感とともに2日間を過ごしました。

ご存じのとおり、学会誌『音楽表現学』は年を追うごとに中身が充実し、2007年の第5号は150ページを越えるものとなりました。これを手にしたときは、大きく成長したわが子を見る思いがしたものです。これからも会員の輪がいつそう広がり、学会の活動が発展し続けることを信じてやみません。

バトンタッチの時

2003-7年度副会長 安藤政輝（箏曲）

設立以来、お世話になりました。ありがとうございました。「日本音楽関係者がいないから」と奥さんからお誘いを受けたとき、何しろ1983年以来的お付き合いですからお断りすることもかなわず、気が弱い私は「ハイ」と答えてしまったのがコトの始まりとなりました。以来、中村会長、奥事務局長をはじめ、理事の皆さんの後をカメラを持って走り回っている間に時が経ってしまいました。

学会の発足にあたり、産声を上げてからどのくらいで軌道に乗るのであろうか、というのが一番の心配の種でした。指導体制の確立を目指したとき、学会独自のカラー（方向性）が無いのも困りますが、独裁になって固定化してしまうのも将来の発展を阻害することにもなりかねません。このようなバランスを考えて現在の役員任期制度は制定されました。

奥会長の下、新しい陣容による体制が整い、「明

るく開かれた学会」の更なる発展を期待しつつバトンタッチできる幸せを、充足感とともに感じております。

任期を終えて

2004-5 会計監査・2006-7年度理事

川口容子（ピアノ）

5年前、演奏家にとって居場所のある学会、必要な学会が発足しました。その直前のある新年会で奥忍さんから「今大変な事を考えているが協力お願いします」といわれ重要さも分らないまま会計監事として参加させて頂きました。発足当時から会員の熱意、善意、行き届いた配慮を感じる学会でした。発表には刺激を受けて気持ちを引き締めましたが、懇親会では、思いがけない音楽の楽しみ方も教わりました。学会にとって大切なのは、質だと思いますので、お互いがきちんと研究内容を評価し、育てていく事が大切かと思えます。今この学会が持つ親しさ、お互いを敬う気持ちをなくさないで確立期に向け発展することを祈念しつつ、大学の定年退職と理事の任期を終えた開放感を味わっています。

役職を辞して

2003-7年度理事 森川京子（ヴァイオリン）

梅雨も明け本格的な暑い夏がやって参りました。皆さまにはお元気でご活躍のことと存じます。去る6月には天候にも恵まれ、昭和音楽大学の羨ましいような美しい会場で「ベル・ジーリオ大会」も終わりホッとしております。学会も回を重ねるごとに活気溢れ研究発表も多彩になり、全員の気運が高まり団結したとても良い学会に成長したと心より嬉しく思っております。また、新しいユニークな会員の方々にもお会いし大いに頼もしく思いました。

さて、私も発足以来5年間の理事の役職も終わりホッとすると同時にどの程度貢献出来たことか反省ばかりです。初めは表現学会でありながら教科教育学に近い方向性に疑問を感じたこともありましたが、演奏家の言葉の表現の場、学校音楽教育に対する演奏家の役割など充分演奏家の研究の場であるこ

とを痛感しております。私事になりますが兵庫教育大を退職し、やり残した研究を続けておりましたが今年4月より近代姫路大学に特任教授として勤めております。今までと違う組織の中でとまどうことも多々ありますが、新しい先生方とまた違った研究を

やっていくことに期待しております。

これからは学会誌の上でお目に掛かれますよう努力して参ります。これからの学会の発展をお祈りしつつ5年間のご協力ご指導に心よりお礼申し上げます。

## 2008年度総会報告

日 時：2008年6月14日（土）15:45～16:45

場 所：昭和音楽大学 A-511

出席者数：50名、委任状88通 合計133名（会員総数：2008年6月5日現在 242名）

記 録：荒川恵子（大阪、音楽学）

1. 開会の辞：中村隆夫会長より開会の辞が述べられた。
2. 議長選出：小畑郁夫氏（長崎、作曲）が選出された。
3. 報 告：「総会資料」記載事項に基づいて報告され、一部修正の上、以下のように承認された。
  - 1) 2007年度事業報告（2007年4月1日～2008年3月31日）「総会資料」【資料1】：奥忍事務局長
    1. 第5回〈火の国〉大会 2007年6月15日（土）～16日（日）  
於：熊本大学 大学教育センター
    2. 理事会 第1回 2007年6月15日（土） 於：熊本大学 大学教育センター  
第2回以降 電子媒体による持ち回り会議
    3. 編集委員会 第1回 2007年6月15日（土） 於：熊本大学 大学教育センター  
第2回 2007年8月10日（金） 於：杉江編集委員長私設作業場（大津市）  
第3回以降 電子媒体による持ち回り会議と編集作業等
    4. 学会誌『音楽表現学』Vol.5 2007年11月30日発行
    5. ニュースレター No.1 2007年8月15日発行  
No.2 2007年11月30日発行  
No.3 2008年3月31日発行
    6. 後援 9件
    7. 会員数 220名（2007年3月31日現在）

### ベル・ジーリオ大会写真集



昭和音楽大学電子オルガンカルテットによるオープニング演奏



中村隆夫会長のごあいさつ

2) 第5回(火の国)大会決算報告「総会資料」－【資料2】：吉永誠吾大会実行委員長

【収入】

費 目	金 額 (円)	備 考
大会参加費	327,000	学会員： 4,000円×65名=260,000 当日会員： 2,500円×25名= 62,500 学生会員： 1,500円× 3名= 4,500
熊本国際コンベンション協会	200,000	研究大会助成
広告費・ブース料	540,000	
合 計	1,067,000	

【支出】

費 目	金 額 (円)	備 考
基調講演講師謝礼	193,600	謝礼+航空運賃+宿泊費+弁当2食
シンポジスト1名	153,000	謝礼+航空運賃+宿泊費+弁当2食
会場費	80,000	
ピアノ調律費	13,650	
印刷費	252,878	『大会要項』、ポスター、ちらし等
人件費	89,700	当日アルバイト代+昼食代
実行委員会会議費	13,150	
通信費	24,420	『大会要項』,後援関係等各種書類送付
雑費	17,616	
一般会計へ繰り入れ	228,986	
合 計	1,067,000	



←下八川共祐昭和音楽大学理事長の  
ごあいさつ

本山切彌氏による基調講演→

コンチェルト デル ベル・ジーリオの  
「平調越天楽による箏変奏曲」



3) 2007年度会計報告・監査報告「総会資料」－【資料3】：奥事務局長

当日配布された資料の3項目<sup>1)</sup>を修正の上、報告、若井健司監事より2008年6月13日に加藤晴子監事とともに監査を行った結果、適正に処理されていることを確認した旨、報告され、承認された。

<sup>1)</sup>「総会資料」【資料3】の修正箇所

【支出】通信費・予算の欄 0→100,000

【支出】小計・決算の欄 886,190→876,525

【支出】次年度繰越決算の欄 121,124→111,124

【収入】	費 目	予 算 (円)	決 算 (円)	備 考
	2007年度学会費	1,100,000	795,000	5,000円×159名=795,000円
	過年度会費	200,000	135,000	5,000円×27名=135,000円
	賛助会員会費	0	5,000	1社=5,000円
	学会誌売り上げ	50,000	25,830	
	利子	1,000	743	
	大会から繰り入れ	160,000	228,986	
	前年度からの繰越	△ 202,910	△ 202,910	
	合 計	1,308,090	987,649	

【支出】	費 目	予 算	決 算	備 考
	『音楽表現学』印刷費	1,000,000	661,500	入稿方法をデータ入力に変更
	ニューズレター等用紙代	20,000	0	
	理事会 会議費	10,000	0	
	交通費	50,000	2,950	会計監査交通費
	編集委員会 会議費	10,000	0	
	交通費	150,000	59,130	
	選挙費用	47,200	43,595	郵送費+用紙代
	通信費	100,000	72,580	郵送費、メール便等
	振込手数料	10,000	15,770	
	雑費	10,000	21,000	学会封筒印刷
	小 計	1,407,200	876,525	
	次年度繰越	99,110	111,124	
	合 計	1,308,090	987,649	

2008年6月13日 会計担当 川口容子 印

上記の通り相違ありません。

2008年6月13日 監 事 若井健司 印

加藤晴子 印

なお、奥事務局長より以下の補足説明があった。

- ・学会創立時等に前納された年会費については、納入年度に組み入れているので、当該年度には含んでいない。
- ・印刷費が予算をはるかに下回ったのは、入稿方法をコンピュータ製版からデータ入力（レイアウトもすんだ完全原稿を作って渡す方法）に変更したことによる。
- ・理事会は電子媒体で行っているため、会議費がかかっていない。
- ・以前は、発送費を雑誌とそれ以外に分けて処理していたが、煩雑である為、今回、これらを一緒にして項目名を通信費に変更した。

4) 2008-9年度会長・理事選挙報告 「総会資料」－【資料4】：中村会長

長岡功選挙管理委員長の依頼を受けて、中村隆夫会長より以下の選挙結果が報告された。

なお、投票率は約50パーセントで、他の同種団体に比べて特別に低いわけではないが、よりよい選挙を目指して、次回以降、投票締切日前に会員に投票を督促することを検討したい旨、提案があった。

日本音楽表現学会 中村 隆夫 会長殿	2008年 3月31日  2007年度選挙管理委員会 委員長：長岡 功
2008-9年度会長・理事選挙開票結果	
選挙管理委員会より本選挙の結果について報告いたします。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・投票総数 109票</li> <li>・有効票 102票</li> <li>・無効票 7票</li> </ul> (内訳：投票期間外投票 3票、返信用封筒への氏名無記入 4票)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・開票結果</li> </ul>	
会長	奥 忍 100票 白票 2票
理事	権藤 敦子 97票 安田 香 97票 柳井 修 97票 佐々木正利 95票 谷口 雄資 95票 土門 裕之 95票 白票 2票
<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の結果に相違ないことを報告いたします。</li> </ul>	
2007年度選挙管理委員 長岡 功、早川 倫子、大山佐知子	

5) 2008年度編集委員会委員の変更について「総会資料」－【資料5】：奥事務局長

谷口編集委員の理事就任に伴い、残任期間1年の編集委員を以下のとおり依嘱することが承認された。

2007年度 編集委員会	2008年度 編集委員会
委員長：杉江 淑子 委員：後藤 丹 佐野 仁美	委員長：杉江 淑子 委員：後藤 丹 佐野 仁美
副委員長：小西 潤子 小畑 郁男 谷口 雄資	副委員長：小西 潤子 小畑 郁男 安藤 珠希

(6) 学会所在地等について「総会資料」－【資料6】：奥事務局長

奥現事務局長、次期会長の所属移動に伴い、学会所在地を以下のとおり移動することが承認された。郵便振替口座は変更しないが、加入者名は以下のとおり変更する。また、現在、学会のHP用アドレスを取得する準備をしており、取得できればメールおよびニューズレターにて会員に周知する予定である。

〒616-8025 京都市右京区花園土堂町1-6 Tel. 075-462-1388/Fax. 075-465-5068

E-mail: : music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

郵便振替口座 01370=6=78225 (変更なし)

加入者名 音楽表現学会→日本音楽表現学会 (変更あり)

7) その他 特になし

#### 4. 協議

1) 2008年度事業計画(案)について「総会資料」-【資料7】: 奥事務局長

以下のとおり提案され、承認された。

1. 第6回〈ベル・ジーリオ〉大会 2008年6月14日(土)~15日(日) 於: 昭和音楽大学
2. 理事会 第1回 2008年6月14日(土) 於: 昭和音楽大学  
第2回以降 電子媒体による持ち回り会議
3. 編集委員会 第1回 2008年6月14日(土) 於: 昭和音楽大学  
第2回 2008年8月上旬 於: 未定  
第3回以降 電子媒体による持ち回り会議と編集作業等
4. 学会誌『音楽表現学』Vol.6 2008年11月30日発行
5. ニュースレター No.1 2008年7月31日発行  
No.2 2008年11月30日発行  
No.3 2009年3月31日発行
6. 2008年度学会員名簿 2008年11月30日発行
7. 会員演奏会等名義後援 15件
8. 会員数 260名(2008年6月5日現在242名)

奥事務局長より以下の補足説明が行われた。

- ・学会会計が黒字に転じたので、理事会を一度くらいは顔を合わせて行いたい。
- ・名簿には会員の自己紹介文を掲載する方針である。



↑ 総会は順調に進み、

←山田克己さんはギターを  
手にしてワークショップ

質問にこやかに  
応える杉江淑子さん→



他にも良い写真がいっぱいありますが、素面の関係で掲載できません。ごめんなさい。



2) 第6回 (ベル・ジーリオ) 大会予算 (案) について「総会資料」－【資料8】：奥事務局長

「総会資料」の【資料8】の4項目<sup>2)</sup>を修正の上、以下の通り提案が行われ承認された。

<sup>2)</sup>「総会資料」【資料8】の修正箇所

収入・大会参加費	497,500→497,000
上記備考 当日会員	46名→11名
学生会員	15名→7名
収入・合計	897,500→897,000

【収入】	費 目	金額(円)	備 考
	大会参加費	497,000	学会員： 5,000円×90名 当日会員：(1日につき) 3,000円×11名 学生会員：(1日につき) 2,000円×7名
	広告・ブース料	400,000	
	合 計	897,000	

【支出】	費 目	金額(円)	備 考
	基調講演講師謝礼	100,000	謝礼50,000円+旅費50,000円
	開会式演奏者交通費	20,000	開会式演奏者2名
	ピアノ調律	20,000	511教室
	箏調整	21,000	
	印刷費	300,000	『大会要項』、ポスター、ちらし等
	会場使用料	50,000	
	人件費	44,000	受付係、会場係補助等
	実行委員会会議費	40,000	
	通信費	50,000	『大会要項』, 広告関係等各種書類送付
	雑費	50,000	
	一般会計へ繰り入れ	202,000	
	合 計	897,000	

奥次期会長より以下の補足説明が行われた。

- ・これまでの大会では協賛金等を含めていたが、学会会計が黒字に転じたので、今後は学会員の会費によって運営していきたい。

3) 新役員の承認

選挙結果に基づき、以下のとおり新役員が承認された。

会長 奥 忍  
理事 権藤 敦子/安田 香/柳井 修/佐々木正利/谷口 雄資/土門 裕之

4) 2008年度予算 (案) について「総会資料」－【資料9】：奥事務局長

「総会資料」の【資料9】の2項目<sup>3)</sup>を修正の上、以下のとおり、承認された。

<sup>3)</sup>「総会資料」【資料9】の修正箇所

参考 2007年度支出・次年度繰越金	決算	121,124→111,124
参考 2007年度支出・通信費	予算	0→100,000

【収入】	費 目	予 算 (円)	参考 2007年度	
			予 算 (円)	決 算 (円)
	2008年度学会費 (会員数260名)	1,300,000	1,100,000	795,000
	過年度会費	50,000	200,000	135,000
	賛助会員会費	5,000	0	5,000
	学会誌売り上げ	50,000	50,000	25,830
	利子	1,000	1,000	743
	大会から繰り入れ	202,000	160,000	228,986
	前年度からの繰越	111,124	△ 202,910	△ 202,910
	合 計	1,719,124	1,308,090	987,649

【支出】	費 目	予 算 (円)	予 算 (円)	決 算 (円)
	『音楽表現学』印刷費	700,000	1,000,000	661,500
	ニューズレター作成費	50,000	20,000	0
	名簿作成費	50,000	0	0
	理事会 会議費	10,000	10,000	0
	交通費	100,000	50,000	2,950
	編集委員会 会議費	10,000	10,000	0
	交通費	100,000	150,000	59,130
	選挙費用	0	47,200	43,595
	通信費	100,000	100,000	72,580
	振込手数料	20,000	10,000	15,770
	雑費	30,000	10,000	21,000
	小 計	1,170,000	1,407,200	876,525
	次年度繰越	549,124	△ 99,100	111,124
	合 計	1,719,124	1,308,090	987,649

5) 第7回大会開催期日と候補地について「大会資料」－【資料10】：奥事務局長

應和恵子氏（次回大会委員長予定者）が、当日の地震による東北新幹線の運行見合わせにより到着できなかったため、奥新会長より第7回大会開催期日と候補地について、右のとおり提案が行われ承認された。

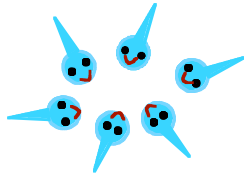
開催期日： 2009年6月13日（土）－14日（日）
開催候補地： 宮城教育大学

6) その他

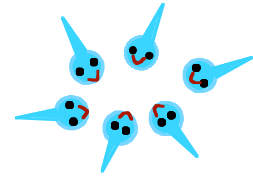
- ・会費未納者に対する「退会条項」を理事会で作成し、来年度総会にて提案することが承認された。
- ・杉江編集委員長より、以下の件について今年度の投稿規定に掲載することが提案され承認された。
  - ①投稿論文提出部数の変更について 6部（現行の投稿規定）→7部
  - ②投稿論文の提出様式の簡略化について 具体的には今後検討予定である。
- ・旧役員の挨拶

5. 閉会の辞：中村隆夫会長

以上。



## ベル・ジーリオ大会参加者の声



### コンサートと2つの冒険

阿方 俊 (ベル・ジーリオ大会実行委員)

“来年度の会場を昭和音楽大学でお願いできないか”という依頼を受けてから一年余りが、あっという間に経ってしまったというのが、大会が済んで1週間の実感です。

まず会場を引き受けるに当たって、校舎が新しい、ホールがすばらしい、駅から近い、などとは別に、何をもって新しい音楽大学らしい音楽表現をアピールできるのかということが念頭をよぎりました。

いろいろ考えた結果、日ごろ聴くチャンスが少ない電子オルガンを中心に鍵盤ハーモニカと箏の新しい演奏表現を目指した「電子オルガン作品の世界初演」「鍵盤ハーモニカの教育楽器からの脱皮」「箏と電子オルガンアンサンブルのコラボレーション」という3つのテーマに絞りました。

ここでコンサートに向けて2つの冒険がありました。その1つは、アンサンブルの学生の何名かがコンサートの一週間前まで教育実習で地方へ帰ってい

たため全員での合わせができなく、指揮者(谷口雄資)と箏奏者(安藤政輝)をやきもきさせてしまったことです。

冒険の2は、電子楽器につきもののPA(ミキサーなどを使った拡声装置)を使わず、電子オルガンを直接スピーカーにつなぎ、いわゆるモニタースピーカーを用いないで演奏したことです。これは会場によって異なる響きや楽器間のバランスや音量などの全責任を指揮者と演奏者が負うことを意味します。オーケストラをはじめアコースティック楽器では当たり前のことですが、電子楽器の常識からは離れたものです。

冒険の1は、スケジュール調整の問題で音楽表現に関係するものではありませんが、ノンPAによる電子楽器アンサンブルは、電子楽器の演奏を根本的に見直すというものであり、学会の研究テーマのひとつとして、今後、研究を続けていくべき冒険であると考えます。

### 「ベル・ジーリオ」大会に出席して思い出した事

野崎博子

よく晴れた気持ちの良い初夏の二日間、皆さまの研究発表をおおいに楽しませて頂きました。音楽表現に向っての考察は、さまざまな角度からアプローチできて演奏する側にとって興味のつきない分野です。演奏家は目の前の楽譜を読み、分析し、組み立て、個人的情感を込めたり、引っ込めたり、テクニックの上達に一喜一憂する日々ですが、音のうしろには、あらゆる存在したであろう一切のものが有

るように考えます。歴史をひもとき、地域の文化を訪ねる旅をして、さらに人類発生を謎をたどり、はたまた地球誕生、宇宙誕生にたどりつき、誰も聞いたことのない太古の闇の音に思いをはせる。ジャンルは広がる。時間は有限。

西洋で発達した音楽のシステムにどっぷり漬ったかのような現在の世界であります。地域に発生した音楽は、その風土とともに、地域住民のDNAに

たっぷり重くすり込まれている。

自分の来し方を思うと、家の宗教は仏教で法事のたびに読経を耳にし、幼い頃、ラジオからは浪花節が聞こえ、三味線をかかえた歌手もいたっけ。お祭りでは神樂が、屋台の上で鳴りひびいていた。街で

はジャズが、FENからはアメリカンポップスが。

今、時々考える。西も東もないところで、音の「ひびき」について。「無音」について。次回の日本音楽表現学会も熱気あふれる会になりますように。

---

ベル・ジーリオ大会に参加して

香曾我部 琢

日本音楽表現学会への参加は今回が2度目であるが、昨年以上に今年度の研究も独創的なものが多く、新たな研究の視点を与えてくれた。本稿では、今大会で私が参加した分科会やワークショップが私に与えてくれた「新たな視点」に焦点化して感想を述べたい。

まず、疇地会員の発表では、日英の幼児の「タッカ」のリズムの違いについて、地道なフィールドワークによって集積された音声データをもとに比較分析した研究成果が示された。疇地会員は、その研究成果から、「タッカ」のリズムの習得が遅いイギリスの子ども達を、音楽スキームの視点から見ること、イギリスの子ども達のリズム感覚の可塑性があり、音楽に対してしなやかであると捉えている。一般的に大人は、乳幼児期における音楽体験はなるべく早いほうが、教育的な効果が高いため、より“正しい”音感やリズム感を養うためには、幼少の頃からより“正しい”音程やリズムを子ども達に与

える必要があると考えがちである。この発表を聞いて、幼児の音楽的な表現活動を捉えるためには、活動を捉える視点そのものをよく吟味することが、研究の第1歩となることを認識させられた。

次に、寺内会員の発表では、「他者に聞かれることを意図しない音楽の可能性」というタイトルで寺内会員の3作品が発表された。寺内会員の発表は昨年に続き2度目であるが、音楽・音に対する真摯な姿勢に心打たれる。とくに、今回発表された「耳の音楽」には音楽の持つ“意識を内面へ向かわせる力”を強く認識させられた。発表の中で自らの奏でる「耳の音楽」に集中するあまり、時間オーバーしてしまう会員の姿が、お片づけの時間なのに砂をぎゅうぎゅうに押し込んだプリンカップをひっくり返す作業を、何度も何度もひたすら行う子どもの姿と重なって見えた。もしかしたら、子ども達は遊びのなかで、「他者に聞かれることを意図しない音楽」を奏でているのかも知れない。

---

ヴィヴァ・ベル・ジーリオ大会

鳶 晴子

音楽表現学会の楽しい様子は2年ほどかがっていました。今回、参加して、「エネルギーな学会だなあ」が率直な感想です。一番印象的だったのは参加者が笑顔で歌い躍る、とあるワークショップでした。紳士淑女の皆様が、時と場合によっては、ハイヒールを物ともせず猛スピードで輪になって走り回り、初老の殿方もスーツ姿で腕立て伏せを披露されるお姿に、自分の発表で疲れ切って椅子の上で

見学していた私は、精進せな…とと思いました。(笑) 私は初参加で発表を申し込んだのですが、発表をしてとてもよかったと思います。自分の研究テーマについて考え、まとめて行くのは孤独な作業です。研究を何度も見直していると客観性が薄れ、「こんなのを調べていてもな…」と寂しく暗くなったり、知りたかったことに見通しが立つと、研究内容を整理するのが面倒に思えたり。ですが、発表を通して

多くの方とお話することが出来、自分の研究内容がどういったジャンルと結びついているのかを発見し、見直すことが出来ました。(そして、締め切りのプレッシャーに研究内容の整理も進んだのでした。)

大会では他の人の発表を聞くことで、自分のテーマを別の側面から捉え直す材料を見つけることが出来ました。大会要綱の要旨だけを見ていると「自分の専門とは離れているな」と思う発表でも、発表される音楽表現の内容や観点にとっても興味がわいた

り、他のジャンルの音楽の要素を客観的に見ることによって自分の研究を分析する鍵を意識し直したりすることもありました。そして真面目(?)な分科会だけでなく、懇親会もとても楽しかったです。

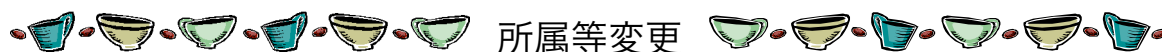
最後に、オトナの音楽表現バトルでは体力的に疲労するのも確か。大会では音楽表現に関わる人々が自分達のエネルギーを持ち寄り、その様々なエネルギーを体当たりさせながら交流して、次への新たな活力を養っていくのだと思います。

ふうふう〜。もらった課題、山盛りだあ〜。



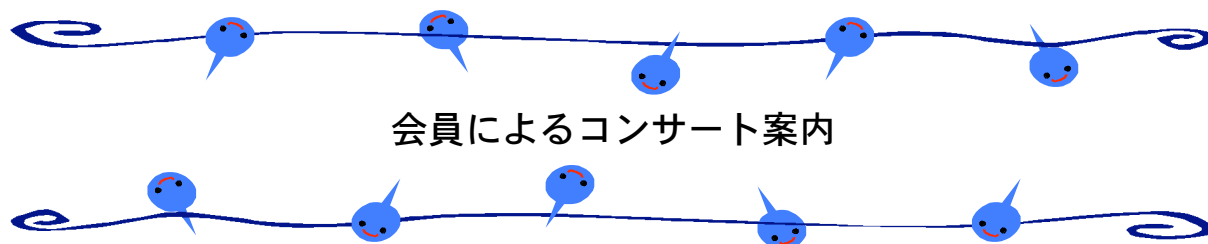
## 新入会員紹介

個人情報のため削除しています。



所属等変更

個人情報のため削除しています。



## 会員によるコンサート案内

夏の音楽祭 三重の子供と日本の歌

趣 旨：次代を担う子供と共に、伝統の継承と創造的音楽表現を行う。

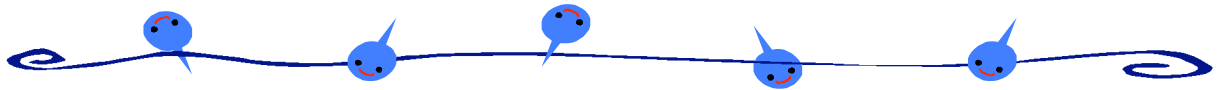
主な内容は和楽と洋楽の融合、日本の歌の継承と新たな音楽の表現

日 時：2008年8月3日(土)

会 場：三重県文化センター中ホール

出演者：(笙)橋本悦子 (箏)大久保智子 津児童合唱団

共 催：岡田文化財団



こどもとおとなへの音楽の贈り物  
バルトーク・ベーラ作曲『児童と女声のための合唱曲集』全曲演奏会

指揮：ウグリン・ガーボル（元ハンガリー国立合唱団常任指揮者・リスト音楽芸術大学教授）

合唱：福島コダーイ合唱団

日 時：2008年8月11日（月）19:00開演

会 場：福島市音楽堂大ホール

入場料：一般2.500円（当日500円増）

日 時：2008年8月12日（火）19:00開演

会 場：トッパンホール

入場料：一般3.500円（当日500円増）

主な内容：講演：ウグリン・ガーボル（通訳：降矢美彌子）

バルトーク・ベーラ：『児童と女声のための合唱曲集』全曲原語演奏  
（サボー・ミクロシュによる新訂版）

問合先：橘 浩昭 Tel/Fax 029-852-6457（夜間）

E-mail：yoh\_tachi@mac.com



安藤政輝リサイタル「宮城道雄全作品連続演奏会11」

趣 旨：宮城道雄の昭和6年～7年の作品を中心に18曲をとりあげる。

日 時：2008年10月2日（木）19:00開演（18:30開場）

会 場：東京証券会館ホール

入場料：4,500円（全席指定）

問合先：安藤政輝 ando\_masateru@yahoo.co.jp

主な出演者：安藤政輝、安藤珠希、柴田旺山

主な曲目：《虫の武蔵野》、《冬田の案山子》、《秋の韻》

メールでのチケットの申込：ando\_masateru@yahoo.co.jp



ドイツ音楽の午後

日 時：2008年10月5日（日）15:00開演

会 場：メルサホール（岐阜市）

趣 旨：岐阜聖徳学園大学演奏系教員による共同研究の継続発表。これまで6回  
行ったフランス音楽の演奏会の後、今年度は新たにドイツ音楽を研究対  
象にする。

主な内容：バッハの歌曲、マタイ受難曲よりアリア、モーツァルトの歌曲、オルガ  
ン曲（小型オルガン使用）、シュトラウスの歌曲、ブラームスのクラリ

ネットソナタ、シューマンのピアノ・デュオ  
出演者：荒木善子、大島晶子、亀井良幸、久野将健、深貝美子、安田 香



オペラ「おでん座」第7回公演  
モーツァルト 歌劇《フィガロの結婚》全曲（日本語台詞による原語演奏）

趣 旨：オペラ「おでん座」は、様々な具が1つの鍋で煮込まれるおでんのように、  
「メンバーの個性を生かした味のある演奏」と、「楽しくオペラを伝えたい」  
という2つのモットーで活動

日 時：2008年12月14日（日）18:00開演（17:30開場）

会 場：東大和市民会館（ハミングホール）小ホール

（西武拝島線「東大和市」駅より徒歩10分）

主な出演者：山崎 智（演出・伯爵）、山本訓久（指揮）、松井永太郎、小田麻子、他  
連絡先：090-6489-3761 stimmbildner0301@gmail.com（山崎）



作曲家集団Port 第18回作品展（大阪市助成公演）

日 時：2008年2月24日（日）18:30開演

会 場：大阪、ベルギーフランドル博物館ホール

〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6 大阪国際交流センター3階

Phone: 06-6773-8850

入場料：2,000円（消費税込）小学生低学年以下の方はご遠慮ください。

主な内容：寺内大輔：感情表現のエチュード Vo. 太田真紀, Pf. 三宅珠穂、他  
問合せ先：0561-36-0943（北浦）

後援：ベルギーフランドル交流センター Flanders Center



## 大学教員の公募



大学名等：上越教育大学 音楽コース

職 種：准教授または講師。

専門分野：管楽器専門の方。

締め切り：2008年8月25日

詳細：<http://www.juen.ac.jp/contents/intro/teacher/index.html>





### 事務局から大変重要なお願い 1—会費納入について—

学会は皆様方の年会費で運営されております。今回、「払込取扱票」を同封させて頂きました会員の皆様におかれましては、各々の未納分を記載させて頂いております。大変お手数ではございますが、納入年度について至急ご確認の上、お振り込みの手続きをして頂きたくお願い申し上げます。

(この文書は7月中旬現在のデータを基に作成しております。事務局担当者がこの6月に変わりました。行き違いの節はご理解頂き、ご容赦下さいますようお願い申し上げます。ご不明の点につきましては、事務局 (kyohome@agate.plala.or.jp) までお問い合わせ下さい。)



### 事務局から大変重要なお願い 2—会員名簿の原稿のお願い—

会員名簿は二年ごとに発行しています。今年は改訂の年度です。個人情報保護しつつ、お互いに顔の見える学会でありたいという願いから、自己紹介方式を採用しています。締切は8月末日ですので、下記要領で必ず期日までに原稿を送付いただきますようお願い致します。前回と変更がない場合も、確認のために原稿をお送り下さい。

- 1) お知らせ頂きたい内容：・お名前 ・フリガナ ・自己紹介  
以下の項目から掲載可能な内容を選択し、150字程度で文を作成してご記入ください。なお、「よろしくお祈りします」などの挨拶文は省きます。  
専門分野、所属、連絡先住所、電話番号、FAX番号、e-mailアドレス、HP、音楽表現について思うこと、このごろ思うこと、モットー、夢、等々。
- 2) 締切：2008年8月31日(日)
- 3) 送付方法：原則として、メールでお送り下さい。添付ファイルにしないでメール本文に貼り付けてください。メールをお使いにならない方は郵送でお願いします。
- 4) 宛先：メールの場合 music-expression@music-expression.sakura.ne.jp  
郵送の場合 〒739-8524 東広島市鏡山1-1-1  
広島大学大学院教育学研究科 初等カリキュラム開発講座 権藤 敦子 宛  
Tel&Fax: 082-424-7137 (直通)



### 事務局から大変重要なお願い 3—住所変更について—

ニューズレターや『大会要項』が宛先不明で返送されてくるケースがあります。連絡先・所属変更については学会事務局 (kyohome@agate.plala.or.jp) まで必ずお知らせいただくようお願いいたします。

## 学会からの大変重要なお知らせ



今回の選挙に伴い学会および事務局所在地を以下のように変更します。

学会所在地：〒616-8025 京都市右京区花園土堂町1-6

E-mail：music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

事務局所在地：〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-4-3-801安田香気付

Tel. & Fax.：078-360-1443

E-mail：kyohome@agate.plala.or.jp



## 『音楽表現学』投稿要領の変更

投稿をお考えの方は、手続き、様式について『音楽表現学』Vol.5巻末の「投稿規定」および学会ホームページ（下記）をご精読ください。なお、原稿の提出部数について「総会記録」にもありますように現行の6部（現行の投稿規定）を編集作業を効率化するために7部に変更しています。ご協力をよろしくお願い致します。

<http://www.ipc.shizuoka.ac.jp/~eeakita/kitayama/toukoukitei.htm>

## ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見、掲載記事に関するご意見などを掲載します。巻頭言にもありますように、今後の発展に関してご意見を是非お寄せください。テーマはその他何に関してでも自由ですので、みなさまの投稿をお待ちします。

- ・研究ノート、随想など：全頁で23字×35行×2段で1600字以内でお願いします。
- ・新入会員の紹介：字数は150字以内。最近の関心事、研究に関することなどご自由にお書きください。なお、「よろしくお願いします」などの常套句は削除します。
- ・会員によるコンサート案内：タイトル、日時、会場、入場料、（出演者）、曲目、連絡先をお知らせください。企画等で趣旨が必要な場合には80字以内でお願いします。
- ・原稿はwordを用い、メールの添付書類でお願いします。受付は随時、送り先は上記学会メルアドへ

## 学会の会員サポート制度をご活用ください

- ★ 研究発表の場の一つが機関誌『音楽表現学』です。本学会は「日本学術団体」の広報協力団体です。『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。
- ★ 大会の口頭発表は、日本音楽表現学会ならではの表現力を駆使して、文字だけでは伝えられない音声をを用い、これまでの研究を発信できる場、それを参加者一同が共有できる場です。会員自身の音楽表現の創意や工夫、実践を披露し、その妥当性を問うワークショップなど、日本音楽表現学会ならではの生の音楽表現を含めた発表の機会をご利用下さい。
- ★ ニュースレター「コンサートのご案内」では、会員による各種の演奏、ワークショップ、イベントなどの活動紹介を行います。これらの活動を学会は「後援」します。みなさまの活動をニュースレター最終頁の「後援願」の様式で、どしどしお寄せ下さい。
- ★ 「新刊案内」では、会員による刊行物の紹介を行います。上梓されたらお知らせください。
- ★ その他、所属されている他学会の情報などもお寄せ下さい。

## 『音楽表現学』バックナンバー購入方法

ご希望の方はメールで事務局までお申し込みください。以下の代金は、到着後郵便振替でお願いします。

会員価格：Vol.2～Vol.3は1部1500円+送料、Vol.4とVol.5は1部3000円+送料、

一般価格：Vol.2～Vol.3は1部3000円+送料、Vol.4とVol.5は1部3500円+送料、

大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。

なお、Vol.1は残部がありません。

(様式)

コンサート等後援願  
日本音楽表現学会の後援をお願いします。

氏 名： \_\_\_\_\_  
所 属： \_\_\_\_\_  
コンサート等の名称： \_\_\_\_\_  
コンサート等の趣旨： \_\_\_\_\_  
主な内容： \_\_\_\_\_  
期 日： \_\_\_\_\_  
会 場： \_\_\_\_\_  
連絡先： \_\_\_\_\_

(様式)

入 会 申 込 書  
日本音楽表現学会に入会を申し込みます。

氏 名： \_\_\_\_\_  
専門分野： \_\_\_\_\_  
住 所： \_\_\_\_\_  
所 属： \_\_\_\_\_  
連絡先： \_\_\_\_\_  
連絡先電話番号： \_\_\_\_\_  
連絡先Fax.番号： \_\_\_\_\_  
e-mail アドレス： \_\_\_\_\_  
推薦者名 (学会員・1名) \_\_\_\_\_  
音楽表現学会に期待されること。ご意見等： \_\_\_\_\_

ニューズレターの「新入会員のご紹介」欄のための原稿執筆のお願い

日本音楽表現学会ではニューズレターで新入会員の紹介を自己紹介の形式で行っています。申し込みと同時に原稿を送っていただくと、連絡や編集作業が順調に進みます。ご協力をよろしくお願いいたします。

- 1) 自己紹介の内容：以下の項目の中から適宜選択して、文章にしてください。  
なお、「よろしく申し上げます」などのご挨拶用文は省きますので、あしからずご了承下さい。  
・所属            ・専門            ・音楽表現について思うこと        ・この頃思うこと  
・モットー        ・夢            ・ホームページアドレス、等々
- 2) 字数：150字を超えない程度でお願いします。
- 3) 〆切：入会申込書と同時にご提出ください。
- 4) 送付方法：メールの本文またはワードの添付。メールをお使いにならない方は郵送でお願いします。
- 5) 宛先：music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

日本音楽表現学会 役員

会 長：奥 忍  
副 会 長：佐々木正利 安田 香  
理 事：権藤 敦子 谷口 雄資  
土門 裕之 柳井 修  
会 計 監 事：加藤 晴子 若井 健司  
編集委員長：杉江 淑子  
副委員長：小西 潤子  
委員：後藤 丹 小畑 郁男  
佐野 仁美 安藤 珠希

編 集 後 記

ベル・ジーリオ大会は瀟洒で美しい昭和音楽大学を舞台として、成功裡に幕を閉じました。2008～9年度の会長・理事選挙も完了し、総会では奥忍新会長を旗頭に、安田香事務局長を基軸としての新執行部体制が承認されました。学会は船出より6年目を迎え、相当な勢いで船員を増やしています。これからは大海原を悠々と航海するために必要なスキルアップをいっそう図らねばなりません。その意味で経験豊富な奥船長の存在はまことに頼もしく、我々中枢クルーはそれぞれの視点で役目を果たしていく所存です。同時に“表現学会丸”をここまで舵取り、導いて下さった前会長の中村隆夫氏をはじめ旧役員の皆様方に心よりの感謝を申し上げ、学会の発展に更なるご援助、ご助言を賜りますようお願いいたします。  
(佐々木正利)